

アジア競技大会を活用した地域活性化ビジョンに係る有識者会議 第4回会議 議事録

日 時 平成31年3月22日(金) 10:30~11:30

場 所 愛知県庁本庁舎 6階 正庁

参加者 【委員】

昇秀樹 委員(座長)、田中豊 委員、來田享子 委員、松下浩二 委員、川原三男 委員
(森浩英 委員、吉田沙保里 委員は欠席)

配布資料 アジア競技大会を活用した地域活性化ビジョン最終案

アジア競技大会を活用した地域活性化ビジョン概要版案

1 議題

(1) 地域活性化ビジョン(最終案)について

- ・事務局から「地域活性化ビジョン(最終案)」について、配布資料をもとに説明を実施。地域活性化ビジョン中間案について

昇 座 長 ・前回の委員からのご指摘、ご意見を踏まえてまとめていただいた地域活性化ビジョンの最終案に対するご意見・ご質問をお願いします。

川原委員 ・前回、私が意見を出したところは反映していただいたことを確認した。「オリンピック」に関する言及は加えていただいたが、最終案の全体像としては、アジア競技大会のようなスポーツの中でも競技性が高いイベントで競い合うことが、なぜ人々の交流や健やかな成長に役立つのか、というスポーツの本質的な価値が見えづらくなっているように思う。スポーツで競うことの本質的な意味と価値は、相手より自分が優れていることを示したり、自分が勝てば良いということではなく、お互いを高めあう、という点にある。これを誤解すると、勝利至上主義に陥ったり、負けることに意味を感じられなくなるなど、特に若い人に望ましくない影響が出る。そもそもスポーツでは、何百人、何千人が参加しても、勝つのは1チームなり1人であり、そのほかは全員負けることになる。勝つことがすべてなのではなく、負けることに意味を見出し、次に向かうという、そこに価値を持たせられるような大会ビジョンであったほうがよい。そうしたところが、若干薄れてしまったかと感じた。

- ・ビジョン最終案1ページ目の「大会の位置づけ」の部分、もしくは5ページの「スポーツの力を活かす」という部分に、「競うことが互いを高めあうというスポーツの価値・理念であり、それを上手く活用する」ということを入れたほうがよいというのが1点目である。クーベルタンの言葉を用いるのであれば、資料を提供する。
- ・6ページの「SDGs」は、スポーツとSDGsのつながりについて少し丁寧な説明がないと、唐突に結び付けた感を持ってしまう。国連広報センターには「スポーツと持続可能な開発」というサイトがあり、スポーツとSDGsの17のゴールの結びつ

きについて例示がなされているので、それを参照するのはどうか。

- ・最後に、ビジョン最終案の 21 ページに「人材確保」という文脈がある。中身を読むと、海外から来る人をおもてなしの精神を持って、暮らせるようにするために支援していこうという意味になっている。だが、「人材確保」という言葉は、相手の立場に立ちづらい言葉のように聞こえる。「ここに来よう、住もう」と思う人の立場を踏まえ、企業や地域側からの「人材」「確保」というモノ的な扱いではなく、相手側の立場に立った言葉の工夫をしたらどうか。違う分野からの視点ということで、参考にしてほしい。

昇 座 長
事 務 局
田中委員

- ・今の段階でコメントがあれば、事務局はいかがか。
- ・いただいた 3 点の意見については、そうした方向性を踏まえて修正していきたい。
- ・全般的に上手くまとめていただいているが、2030 年くらいの姿を目指すということでもまだ 10 年少々ある。息切れしないよう、時間軸の視点を持ち、途中途中での目標数値の管理が重要だと感じている。
- ・その上で、時間が長いということもあり、継続的な活動が必要だと思う。スポーツについては、今年はラグビーワールドカップ、2020 年は東京オリンピック・パラリンピックがあるが、次のナショナルイベントは大阪万博である。2026 年に、愛知・名古屋でアジア競技大会があるということを発信し、埋もれていかないようにするという意識を持つことが重要だと感じた。
- ・冒頭に昇座長から話があったが、改めてイチロー選手の偉大さを感じた。イチロー選手もだが、地元からトップアスリートを出す活動は、重要だと思っている。
- ・また、産業振興、観光振興への取組が書かれているが、まったくそのとおりだと思う。産業振興の面では MRJ、燃料電池、自動運転等が開発されており、名古屋市でも SRT という新しい道路交通を考えている。次世代のモビリティの先端都市というイメージをこの地域に植え付けて、情報発信ができるとうい。
- ・観光振興の面でいうと、アジア競技大会は 40 数か国から参加があるかと思う。すべての国を同様にターゲットとするのは難しく、観光振興上のターゲットとなる国を絞り込みながら、戦略を立てることも必要だと感じた。
- ・今年 4 月に出入国管理法が改正され、この地域の外国人もさらに多くなる。活用ということではないが、そうした方にボランティアといった形でお手伝いをしていただくことも、意識していく必要がある。

昇 座 長

- ・田中委員に関連して、ビジョン最終案の 8 ページに、取組時期について、大会前、大会中、大会期間後と 3 つに分けて記載してある。時間軸の管理という点で、主な項目だけについてだけでよいが、一覧にしていただけでないか。できれば、そうしたものがあると見やすいと感じた。
- ・ビジョン最終案の 27 ページに、アウトプット・アウトカムの数値目標が掲げられている。せっかく 4 つの目標があるのだから、例えば観光入込客数を指標にしたり、産業の分野で次世代モビリティとして自動運転やカーシェアといった産業の指標、人材育成・国際貢献の指標を考えたりして、4 つの目標について

最低でも1つずつ目標指標があると、進行管理がしやすいのではないかと。

- ・田中委員のご発言について、事務局からコメントはあるか。
- 事務局
・継続的な取組が必要というご意見はそのとおりである。昇座長のご指摘のように、一覧表の作成についても、各部局と相談し、検討していきたい。来年度、スポーツ局が新設され、全庁一丸となって取組んでいく状況にある。県の総合計画や局の計画が変わっていくタイミングにあるため、今回のビジョンで書いてある項目を、できる限り入れてもらうことを通じて、具体化を進めていきたい。
- 昇座長
・20世紀末、自治体行政で文化行政が重要だと力説していた梅棹忠夫らは、文化行政に柱を立てるとともに、屋根をかけることをキーワードとしていた。文化を大事にすることにおいて中心となる組織がありつつ、農林行政でも土木行政でも、すべての行政で取り組む。スポーツでもまったく同じだと思う。スポーツ局が柱となるが、そこだけでは終わる話ではない。農林も土木も、福祉にもスポーツの屋根をかける。そういう意識をしなければならない。このビジョンはひとつの羅針盤となる。
・このビジョンは、アジア競技大会に向けての計画だが、アジア競技大会だけではなく、愛知県におけるスポーツ行政全体についての最初の指針であり、総合計画にも、健康福祉部などの計画にも盛り込んでいくためのスタートアップである。これを大事にするか否かで、愛知県のスポーツ行政がうまくいくか決まる。引き続きソフト面での努力をお願いしたい。
- 川原委員
・今、昇座長が言われたことに賛成する。ビジョン最終案7ページの「スポーツで愛知をブランディングする」ことは、今までに行政で考えたことはないと思う。これができれば、1つ大会が一過性ではなく、愛知県全体の資産として残っていく。そのために、8ページに掲げてある「トップアスリートの育成・輩出」に対して、5つの取組がある。「トップアスリートアカデミー」は先行しているが、5つすべてが絡んでいかないと、トップアスリートの育成・輩出も、継続的なスポーツの振興もできないと考えている。スポーツ団体だけでは脆弱であり、企業や行政の力を借り、愛知県でスポーツ自体の価値が醸成されれば、継続的にトップアスリートも排出されるであろうし、よいコーチも出てくる。
ビジョン最終案の27ページにあるとおり、見直しや総括を行いながら、スポーツの世界の方々と行政、企業の方が手を携えて、スポーツの振興にまい進できると素晴らしい。
- 事務局
・トップアスリートの輩出・育成は、行政だけではできないことであり、スポーツ団体、企業と連携して取り組みたい。引き続きご協力いただきたい。
- 松下委員
・各先生がいろいろな意見を出していただいたので、資料を見ての感想を述べたい。
・私はTリーグという卓球のリーグに関わっており、3月17日に決勝があつて、今シーズンが終わった。先ほどもイチロー選手の話が出たが、羽生結弦選手など国際的に活躍する輩出することは、社会に対する影響があると感じている。しか

し、実際にスポーツが社会にどのように影響しているか突き詰めていかないと、スポーツの価値は伝わらないと思っている。Tリーグの認知度は高まっているが、選手も中学生が試合に出場して、日本選手権でも中学2年生が決勝に出場するなど、目に見えて貢献するところもある。このシーズンを終えて感じているのは、目に見えないところも大切だということである。例えば、不登校の子どもが、水谷・張本選手のサインをもらい、友だちに見せたいがために学校に行くようになったということ、母親から電話をもらって知った。スポーツを通じて子どもがやる気になった、ということも多く聞いている。子どもと接して、スポーツの良さをどう伝えていくのが大切であり、これからの日本を背負って立つ若い子どもたちのためにどのように伝えて、活躍してくれる場を作れるのかということを考えている。アジア競技大会も、もっと若い方に関わっていただき、若い方が伸びていくようにしてほしい。

- ・施策としてはまとまっていると思うので、スケジューリングや、どう具体化させて目標値を達成していくのが重要になる。よい部分、悪い部分が出てくると思うが、早めにスタートして取組んでいただければと思う。
- ・目標値の2番目に「多くの来訪者でにぎわう愛知をつくる」とある。スポーツイベントなどでのリアルなPRもあるが、TリーグはデジタルメディアでPRをしている。リアルなものは人員の配置などでお金がかかるが、デジタルは配信・拡散をうまく活用して、お金がかからないところもある。卓球は、中国ではTikTokを活用して、海外の人にTリーグを知ってもらっている。台湾、香港にもデジタルメディアもあるので、入り込んでいって、アジア競技大会を知ってもらうのもよいのではないか。

昇 座 長

- ・松下委員のアナログ版になるが、私が小学生の時に『少年マガジン』や『少年サンデー』が発刊された。それぞれの表紙は、王・長嶋、相撲の横綱の朝潮だった。その頃、スポーツ選手はヒーローであり、少なくとも少年には大きな影響を与えていた。松下委員の意見を聴くと、今も少年少女に影響を与えているということだと思う。
- ・私も公務員生活をしていたが、スポーツをやっていた人はさわやかだった。スポーツをやっていた人は、勝っても負けても相手を称賛できる。科学的根拠はないが、人と人との接し方において、お互いに称えあうノウハウを身に着けているイメージがある。
- ・スポーツでも、人生やまちづくりも、人と人との関係を取り結び、対立をどう解決するかということである。スポーツを経験した方は立場が違ってもお互いを称えあうことを身に着けていて、社会においても好感を持って迎えられ可能性が高いと思う。
- ・この報告書にも、スポーツの社会的効用といったニュアンスが少しあるとよい。だから、愛知県全体に広げる意義を与えられる。コミュニティの作り方、会社での人間関係の作り方、家族のあり方にも、スポーツのお互いを称えあうことが生

かされてくる。幸福度も高まる可能性がある。このようにスポーツが役立つというニュアンスを込めると、スポーツが大事だという説得力が高まると思う。今回のビジョン策定後の推進に対するアドバイスや期待することについても、ご意見をいただきたい。こうしたご意見や、他の委員に触発されて、ご意見があればお願いしたい。

- 来田委員
- ・ビジョン最終案 27 ページのビジョンの推進の部分について、意見を述べたい。
 - ・現状として、指標の項目が3つあり、今後、追加していかなければならない。1 段目は「愛知トップアスリートアカデミーから国際的スポーツ大会に出場する人数」が目標値になっている。具体的な人数は今後決めるとのことだが、それだけでは愛知県におけるアジア競技大会の意義を測定することはできないと感じている。
 - ・国、日本スポーツ振興センター、日本スポーツ協会、JOC でも、単純な数をあげただけではスポーツの価値は測れない、という考え方が進みつつある。たとえばある選手を育成する際には、国際大会に出場したか、どのような競技成績を残したか、という従来の指標だけでなく、どういったキャリアを形成したか、学業と両立させているか、どのような社会貢献意識を持っているか、国際交流事業に参加するなどの社会活動をしたか、といった非常に多様な視点でアスリートを評価する取組みが見られるようになってきている。
 - ・勝負は負けることもある。浅田真央選手はオリンピックで金メダルを取ってないが、社会的評価が高いのはそれ以外で様々な実績があるからだと思う。メダルの数や出場回数で語れない何かを、きちんと評価したい。今日も話題に出ているイチロー選手に私たちが素晴らしさを感じるのは、そういう多角的な視点からのものだと思う。そうした多角的な指標を、トップアスリートアカデミーの分野で検討していただきたい。このビジョンの段階では、「愛知県から誇れるアスリートを輩出するための指標の開発」としてもよいのではないかと思う。全国規模のスポーツ組織では既に取組んでいる。
 - ・選手だけでなく、地域住民のスポーツを支えていくことになる競技団体に関しても、たとえば、多様性を確保する施策を取ったているか、強化と育成のバランスを図っているか、アスリートのセカンドキャリア支援をしているか、アスリートイメージの向上や価値を高めるようなメディア対応、広報活動をしているか、そうしたことがあるべき姿として求められる。スポーツ庁がガバナンスコードを出すことになっていることも踏まえ、こうした国全体の動きに即しつつ、愛知県独自の評価指標を考えたほうがよい。愛知県はアジア競技大会に向け、他県に先んじて、そうした評価指標を検討している、というプロセス自体が大会を開催する意義として残されていく。できれば、盛り込んでいただきたい。
- 昇 座 長
- ・東京オリンピック・パラリンピックよりも、愛知・名古屋大会が先んじている面があるとよいですね。今後の努力目標ということで。
 - ・本日欠席の森委員、吉田委員からは、事前にご意見をいただいているとうかがっ

ている。両委員に代わって、事務局よりご紹介する。

- 事務局
- ・森委員からは次のような意見をいただいている。
 - ・最終案の取りまとめに当たっては、愛知間のご関係者の皆様のご尽力に敬意を表する。本最終案には、過去三回の会議における各委員の皆様の意見も十二分に反映されており、感謝申し上げる。
 - ・昇座長から何度もお話があったとおり、2026年に開催されるアジア競技大会は、これまでの大会とは違い、成長著しいアジアにおいて日本の存在が大きく問われる大会になることと思う。本大会が前年開催の大阪・関西万博、2027年のリニア開業効果を最大限に取り込み、アジアをはじめとした海外からの人材との対流、交流を起し、地域が活性化するとともに持続可能な地域づくりに貢献することを期待する。
 - ・ビジョンを作って終わりではない。Ⅲ章の「ビジョンの推進に向けて」であるように、是非、名古屋市をはじめとする多様な関係者の皆様と連携し、ビジョンの実現に向けて、具体的な実行に移されることを期待している。
 - ・吉田委員からは次のような意見をいただいている。
 - ・事前に頂戴したビジョン案を拝見した。私自身、欠席が続きお力になれず恐縮だが、素晴らしい案に仕上がったかと思う。特に異存はない。
 - ・今後、2026年に向け、ビジョンに沿った施策が具体化されていくことを楽しみにしている。
- 昇座長
- ・森委員、吉田委員の意見も念頭に置いて、追加でご意見を頂戴したい。
- 昇座長
- ・森委員の意見に関連して、計画として書くことではないが、アジア競技大会を含むイベントは日本の外交戦略にも密接に関わっていることを念頭に置いた方がよい。
 - ・では、事務局から、追加でコメントがあればお願いしたい。
- 事務局
- ・松下委員からスポーツの価値、昇座長から人材育成という視点についてコメントをいただいた。スポーツが多様な価値があることを踏まえたい。これは、SDGsにも関連するため、こうした視点を取入れるようにしたい。
 - ・來田委員から評価指標の話があったが、これまでになかった視点であるため、今後もアドバイスをいただきたい。
- 昇座長
- ・本日は、たくさんのご意見を頂戴することができた。ありがとうございました。さて、次第「2 その他」については、事務局にお願いします。

2 その他

- ・ビジョンの策定に係る今後の予定等について事務局が説明